

校長ニューズレター(第27号・3月号) 宜野湾市立長田小学校校長:横山芳春



音楽の力(ギャレス先生のユースオペラに挑戦)

先月末に、第28回沖縄県小学校金管バンドフェスティバルが嘉手納文化センターで開催されました。本校からも音楽部が出場しました。長田っ子の迫力のある演奏で、会場からの拍手もひとときわ大きいものでした。観衆を感動させる演奏で、優秀校に選ばれました。

先月、BSNHKでドキュメンタリー番組「ギャレス先生のユースオペラに挑戦」というイギリスの番組を見ました。

内容はこうです。カリスマ的指揮者であるギャレス・マローン(36歳)さんが、素人の子どもたちを集めて、イギリスの名門オペラハウスでオペラに出演させるまでを描いたものです。ギャレスさんは、地域を歩いて人集めから始めます。

「オペラ?なんだそれ」「金くれるの?」「俺のやりたいのはデスクロック」。子どもたちはなかなか相手にしてくれません。苦労の末、とうとう400人を集めてレッスンを重ね、14歳から19歳までの若者たちが50人ほど選ばれました。少年刑務所に服役した少年、不登校の少女、ドラッグを経験した少女、音楽とは無縁だった職人の息子・・・もちろん普通の子が大半ですが・・・

レッスンを重ねるうちに、子どもたちの目が輝いていきます。オペラハウスを見学した子どもたちの驚嘆。自分の子どもがオペラに出るなんて信じられないと涙ぐむ親たち。

厳しい練習に挫折しそうな子どもたち、自信を失いかける子どもにも、ギャレスさんは熱心に続けることを勧めます。人生をあきらめていた子どもたちを励まします。

「君ならできる!大丈夫だ!」

ギャレスさんは、

「子どもたちに、ものごとをやり抜くことの大切さを分かってほしいのだ」と言う。

本番は大成功。子どもたちは、自分に自信を持つようになりました。

「自分は出来るんだ」。生きる力を獲得したのです。これが「音楽の力」かな。

ギャレスさんは、音楽家であると同時にすばらしい教育者でもありますね。教育をあきらめない姿勢は、学校関係者に勇気をあたえます。

実は、番組を見ているあいだ中、ギャレスさんと本校の先生たちが重なって見えていました。子どもたちに、音楽の力で自信をつけさせてあげる点で似ているなど思いながら・・・

ギャレスさんは、英国王立音楽院を2005年に優秀な成績で卒業した、プロの音楽家。余談ですが、彼はイギリスのボーンマスで生まれている。私も妻とともにこの町に半年間、留学していました。

さて、ギャレスさんはプロの音楽家ですが、本校の先生たちはそうではありません。本校の先生たちは、暗中模索で、子どもたちと一緒に、総合表現を創りあげていきました。長田小の先生たちはプロの音楽家ではありませんが、プロの教育者です。プロの教師として、ギャレスさんのように、子どもたちに表現指導をしてきました。努力の甲斐あって、子どもたちに自信や集中力をつけさせ、友だちと協力して作品を創りあげていく喜びを味あわせてくれました。

本校のたくさんのギャレス先生、よく頑張りました。ありがとう!

長田っ子のみなさん、きらきらと耀く姿を見せてくれてありがとう。私は、みなさんのハレ姿を一生忘れません。

※「ギャレス先生のユースオペラに挑戦」をダビングしました。DVDレコーダーで再生できます。興味のある方は、PTA事務まで、ご連絡を。